

盤尻パークゴルフ場の利用状況と今後の方向性について

1. 設置の背景と目的

(1) 背景

- ・ルルマップ自然公園ふれらんどパークゴルフ場の廃止方針に伴い、当面の受け皿および観光動線の維持を目的として、盤尻地区に代替施設として設置したものである。
- ・盤尻地区は、市の観光施策における重点エリアの一つであり、はなふるから恵庭溪谷へ至る回遊性の確保と滞在時間の延伸を図る位置づけである。

(2) 目的

- ・観光動線の維持・滞在時間の延伸：はなふる－恵庭溪谷間の回遊性を確保し、観光消費拡大を促進する。
- ・市民の健康増進・レクリエーション機会の提供：高齢者を含む幅広い世代の野外レジャー需要に対応する。

(3) 制度的位置づけ

- ・令和6年の恵庭市ルルマップ自然公園ふれらんど条例改正により、盤尻パークゴルフ場を新規に位置づけるとともに、ふれらんどパークゴルフ場を令和7年4月1日付で廃止する規定とした。
- ・同条例の附則により、施行後「3年をめぐりに検討・所要の措置」を定めており、令和8年（2026年）に総合的な見直し（廃止を含む）を行う枠組みである。

2. 利用状況・収支の概要

(1) 運営期間

- ・令和6年度（2024年）：9月15日～11月3日（開設初年度）
 - ・令和7年度（2025年）：4月29日～11月3日
- ※臨時閉鎖18日（クマ出没：10/2-3、10/19-11/3）※11月は実質クローズ

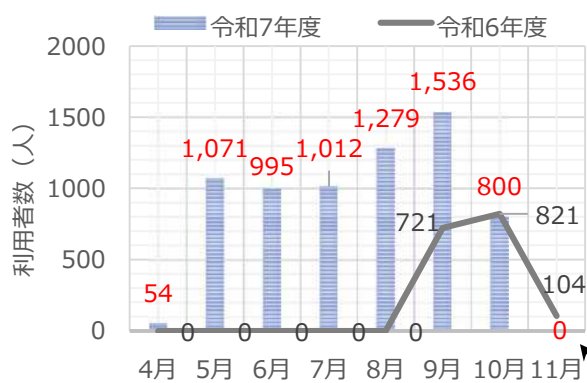
(2) 利用実績（R6・R7の比較）

①月別利用実績

< 表1：月別利用実績表 >

月	令和6年度	令和7年度
4月	—	54
5月	—	1,071
6月	—	995
7月	—	1,012
8月	—	1,279
9月	721	1,536
10月	821	800
11月	104	0（臨時閉鎖）
合計	1,646	6,747

< 図1：月別利用実績（グラフ） >



令和7年11月は臨時閉鎖により利用者数0

②利用者の構成

・市内：66%

(令和6年度：1,120人＋令和7年度：4,452人＝5,572人)

・市外：34%

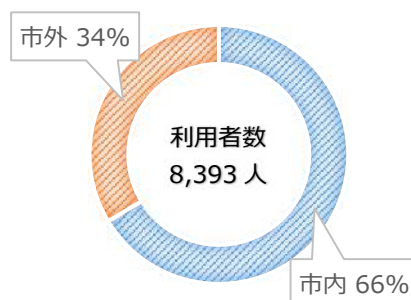
(令和6年度：526人＋令和7年度：2,295人＝2,821人)

③日平均利用者数

・令和6年度：32.9人／日（営業日数：50日）

・令和7年度：39.5人／日（営業日数：171日）

< 図2：利用者の構成 >



(4) 利用料収入

< 表1：盤尻パークゴルフ場 歳入内訳 >

単位：円

	令和6年度（決算）	令和7年度（決算見込み）
盤尻パークゴルフ場利用料	994,400	4,198,400

(5) 歳出

< 表2：盤尻パークゴルフ場 歳出内訳 >

単位：円

	令和6年度（決算）	令和7年度（決算見込み）
人件費	2,355,814	5,641,302
需用費	853,072	853,199
役務費	128,598	281,120
委託料	771,095	12,407,146
使用料及び賃借料	7,674,772	11,822,745
工事請負費	381,975	0
原材料費	426,976	1,152,354
備品購入費	551,980	0
合計	13,144,282	32,157,866

(6) 収支比較

①収支比較表

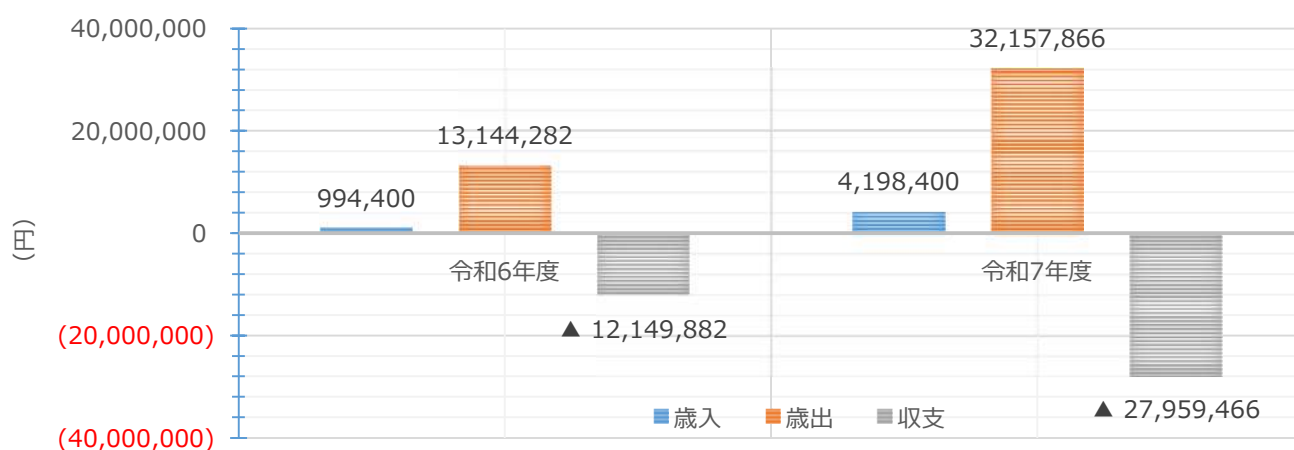
< 表3：盤尻パークゴルフ場 収支 >

単位：円

年度	使用料収入	歳出	収支
令和6年度（決算）	994,400 円	13,144,282 円	▲12,149,882 円
令和7年度（決算見込み）	4,198,400 円	32,157,866 円	▲27,959,466 円

< 図3：盤尻パークゴルフ場 収支 >

単位：円



②収支構造

- ・固定費（借地料・委託）が非常に大きく、利用増でも赤字構造は解消できない
- ・令和 7 年度は、クマの出没による臨時閉鎖で収入が減少→収益の変動リスクが極めて高い構造

3. 運営課題（安全・維持管理・観光効果）

（１）安全（クマ出没リスク）

- ・令和 7 年度は、盤尻パークゴルフ場周辺でのヒグマ出没により 18 日間の臨時閉鎖を実施
- ・出没・駆除場所は近年、盤尻地区を中心とする事例が確認されており、再出没リスクは高い状況にある
- ・監視・通報体制、避難動線の強化は一定の効果が期待される一方で、追加コストおよび職員負担の増大を伴う

（２）維持管理（鹿糞・芝生・清掃）

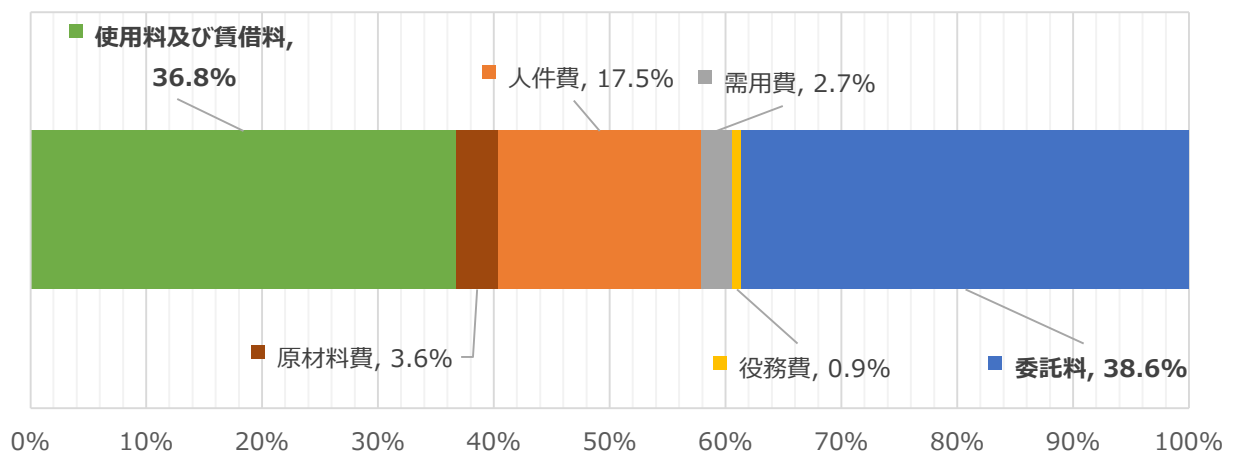
- ・コース内のエゾシカ糞の除去に日々概ね 2 時間以上を要するなど、衛生面・景観面・顧客体験に影響が生じている
- ・臨時閉鎖中も芝生維持等の固定費が発生

（３）採算性（固定費構造の重さ）

- ・借地料および委託費が歳出の中核を占め、利用増のみでの収支改善には限界がある

＜ 図 4：令和 7 年度（決算見込み）歳出内訳 ＞

単位：円



- ・臨時閉鎖が発生すると、収入の変動幅が拡大し、安定的な費用回収が困難となる

（４）観光効果の限定性

- ・利用者の約 66%が市内居住者であり、単体施設としての外部誘客効果は限定的と評価できる
- ・一方で、はなふる－恵庭溪谷の周遊促進や、周遊バス等のソフト事業との組み合わせにより、一定の回遊性確保に資する面はある

（５）運営の不確実性

- ・クマ出没期と繁忙期が重なる
- ・気象・野生動物要因による急な閉鎖で、安定的な収益確保が困難

4. 今後の方向性

ルルマップ自然公園ふれんど条例の附則が定める令和 8 年見直しにおいて、①安全リスク、②固定費の重さ、③収益改善余地の少なさ、④観光効果の限定性などから、廃止を含む抜本的見直しも含めて検討を進めます。

（１）安全上の継続困難

- ・クマ出没が反復・長期化しており、今後も頻繁に臨時閉鎖が発生する可能性
- ・安全対策の強化は追加コストを招き、費用回収性をさらに悪化させる

（２）収益構造の根本的制約

- ・借地料・委託などの固定費が極めて重い
- ・市民利用比率が高く、単価・需要の観点から黒字化のシナリオは薄い
- ・臨時閉鎖リスクが収入の不安定性を増幅し、費用回収の見通しも低い

（３）観光政策上の費用対効果

- ・回遊性確保の役割は果たすが、単体としての誘客効果は限定的
- ・同じ財源を他の観光施策（渓谷ビジター機能、周遊交通等）に充てた方が効果が高い可能性